

五所川原市
その他行政施設整備計画
(案)

20 年 月
五所川原市

土木課 金木総合支所 観光物産課

<目次>

1. 計画の目的	1
2. 本計画の位置付け	1
3. 計画期間	1
4. 対象施設	2
5. その他行政施設の現状	2
6. これまでの整備状況	3
7. 今後の整備方針	4
8. フォローアップの実施	5
個別票	6

1. 計画の目的

近年、本市を含む多くの地方公共団体においては、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっています。また、厳しい財政状況が続く中、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想されています。このことから、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点をもって長寿命化等を計画的に行うことにより、財政負担の軽減・平準化を図るとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっています。

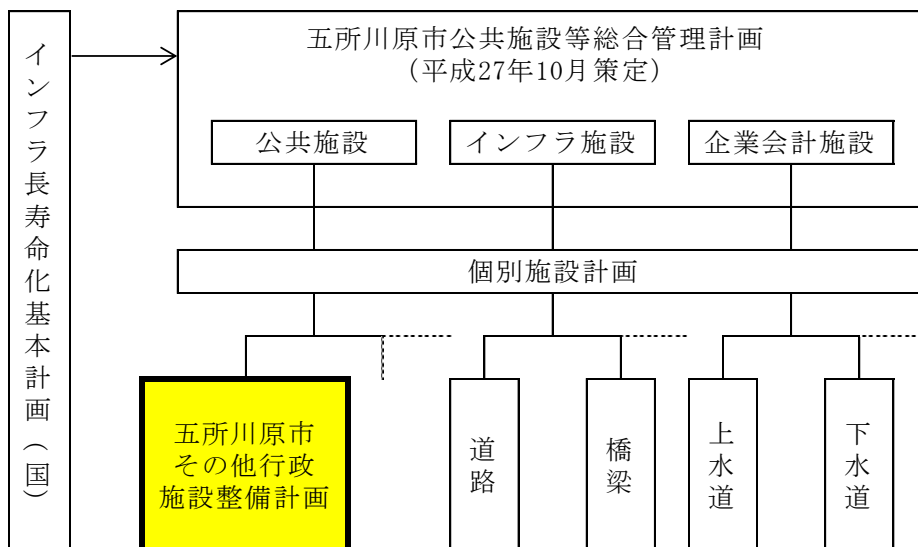
そのような中、国は2013年（平成25年）11月に「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、各地方公共団体においても、このような国の動きと歩調を合わせ、速やかに公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画の策定に取り組むよう要請されたところです。

これらを踏まえ、本市では2015年（平成27年）10月に「五所川原市公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」といいます。）を策定し、基本的な方針を示しました。

今回策定しました「五所川原市その他行政施設整備計画」（以下「本計画」といいます。）は、総合管理計画で示した基本的な方針を具現化するため、個別施設ごとに今後の方向性やスケジュール、方向性に伴う事業費などについて取りまとめたものであり、将来に向けて、保有する公共施設等を有効活用しつつ、施設保有量の適正化や計画的な保全による施設の長寿命化を図る取組の指針とするものです。

2. 本計画の位置付け

本計画は、総合管理計画に基づく実施計画である個別施設計画として位置付けます。



3. 計画期間

総合管理計画の計画期間は2044年度（令和26年度）までの30年間としていますが、本計画は、その第1期分として、2020年度（令和2年度）から2029年度（令和11年度）までの10年間とします。

なお、本市を取り巻く社会経済情勢の変化等により、見直しが必要な場合は適宜見直しを行っていきます。

4. 対象施設

本計画での対象施設は以下のとおりです。

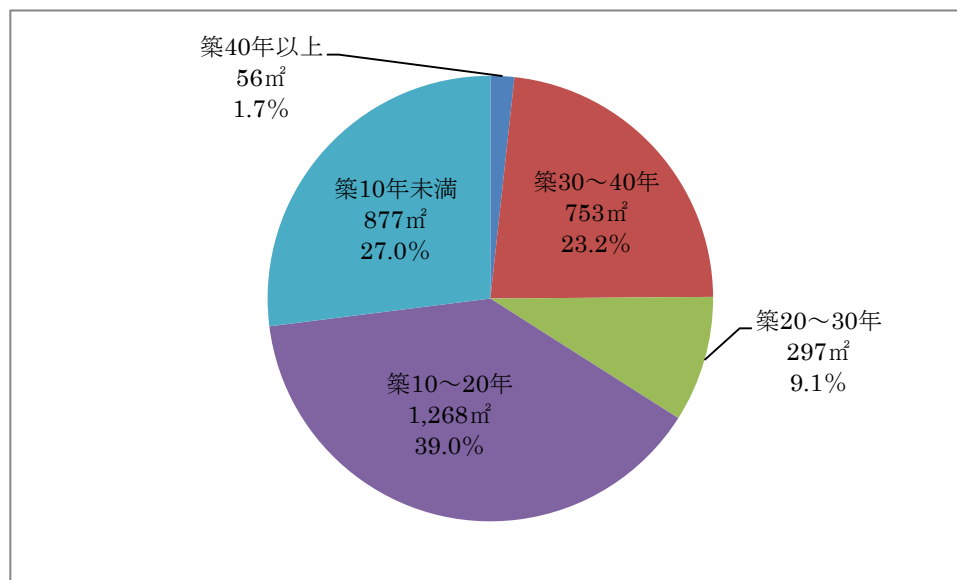
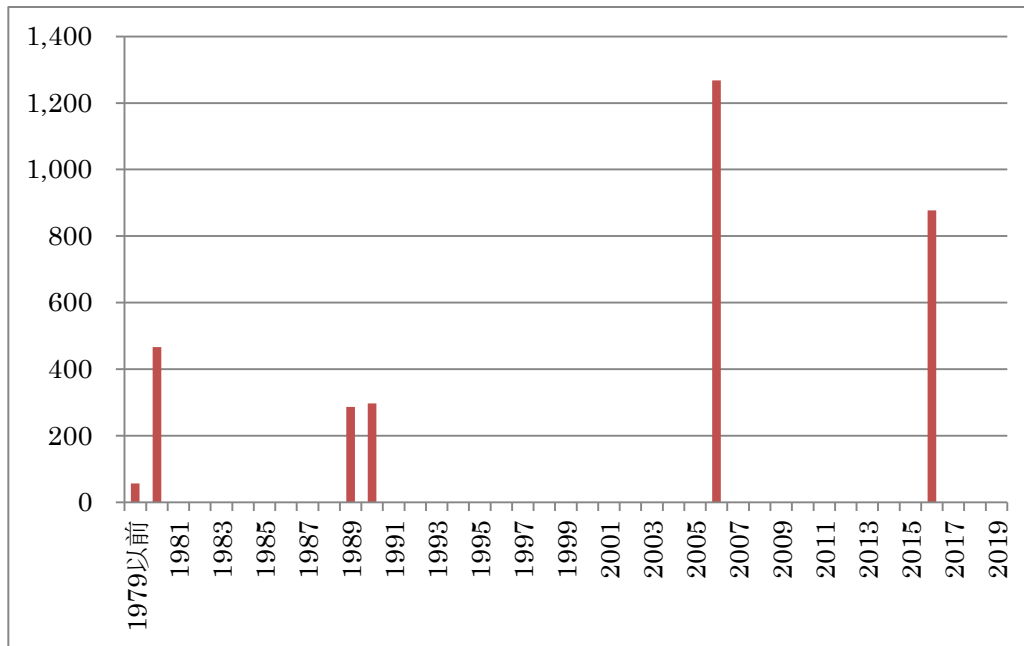
No.	建物名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年 (年)	老朽化率 (%)
1	立佞武多広田格納庫	広田字柳沼	466.56	1980	129.0
2	太鼓格納庫	栄町	56.20	1977	179.2
3	スノーステーション	金山字竹崎	1,267.57	2006	45.2
4	道路河川管理ステーション庁舎棟	中央四丁目	301.42	2016	16.7
	道路河川管理ステーション車庫A棟		288.00	2016	12.9
	道路河川管理ステーション車庫B棟		288.00	2016	12.9
5	金木町除雪センター	金木町芦野	286.00	1989	182.4
	金木重機置場		184.00	1990	176.5
	塵芥収集車車庫		113.00	1990	176.5
合 計			3,250.75		

※老朽化率は、経過年数を耐用年数で割った値（令和2年4月1日時点）

5. その他行政施設の現状

老朽化率が100%を超過した施設においては、必要に応じて修繕しながら機能を維持し使用します。

建築年別の延床面積 (㎡・年)



6. これまでの整備状況

最近の主な整備・改修状況は以下のとおりです。(総事業費が 10,000 千円以上の事業)

事業名	五所川原市道路河川管理ステーション建設事業
事業年度	2015 年度 (平成 27 年度) ～2017 年度 (平成 29 年度)
事業内容	排雪ステーションの建設
総事業費	331,264 千円 (財源：地方債 327,100 千円、一般財源 4,164 千円)

7. 今後の整備方針

(1) 適正配置・適正規模の考え方

必要に応じた修繕等を実施することで施設の機能を最低限維持しつつ、業務の見直し等による統合、再編、適正化を検討していきます。

(2) 優先順位の考え方

老朽化や劣化が著しい箇所や、本来の機能が維持困難に陥る可能性の高い箇所を優先的に修繕します。

(3) 施設の管理方針

施設及び設備の機能維持、長寿命化を図りながら、直営にて管理します。

(4) 整備方針

必要に応じて適正な修繕等を実施することにより、施設の機能維持と長寿命化に努めます。

① 今後 10 年の整備方針

No.	施設名称	方向性	行動計画	管理方法	説明
1	立佞武多広田格納庫	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
2	太鼓格納庫	廃止	除却	—	建物の解体時期を検討します。
3	スノーステーション	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
4	道路河川管理ステーション	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
5	金木町除雪センター等	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。

※施設の方向性等の説明

方向性	行動計画	説明
存続	現状維持	現状のまま維持（小破修繕を含む。）
	大規模改修	長寿命化等のため、建物を全面的に改修
	一部改修	長寿命化等のため、建物の一部を改修
	複合機能化	分類の違う目的の施設の機能を取り入れる
	集約化	同じ目的の複数の施設を一つに集約
	広域化	他自治体と共用
	更新	老朽化等のため建物を更新（非現地建替えを含む。）
廃止	転用	施設機能を廃止し他の用途へ転用
	民間委譲	民間事業者等へ譲渡（売却を含む。）
	除却	施設を解体撤去、又は解体時期を検討

※施設の管理方法の説明

管理方法	説明	
直営	市の直営 （個別の業務ごとに私法上の契約で委託する方式を含む。）	
民間委託	指定管理	指定管理者による管理運営方式
	包括的民間委託	複数の業務や施設を包括的に委託する方式
	P F I など	公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う方式

②改修等の今後のスケジュール

No.	施設名称	今後のスケジュール									
		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
2	太鼓格納庫	除却（解体時期検討）									

③10年後（2029年度）の施設状況比較

総延床面積（㎡）		維持管理コスト（千円）	
現在	2029年度	現在※	2029年度
3,250.75	3,194.55	4,500	4,189

※2015年度から2017年度までの3か年平均

8. フォローアップの実施

本計画を着実に推進していくため、PDCAサイクル（Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善））に基づき、計画の評価・見直しを行いながら実施していきます。

所管課	観光物産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	立佞武多広田格納庫	総延床面積 (㎡)	466.56
所在地	五所川原市大字広田字柳沼3番地1	代表建築年 (年)	1980
構成施設	格納庫		
施設の目的	中型立佞武多 (約 10m) や太鼓台車などを保管		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
格納庫	4	8	8	4	2	26

(2) 供給面 (単位:)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
31	910	33	32

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>1980年度 (昭和 55 年度) に建築した建物で、中型立佞武多や太鼓台車を保管しています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>中型立佞武多や太鼓台車を保管できるスペースを有する場所が当施設以外に存在しないため、存続する必要があります。</p> <p>なお、将来、他の保管場所が見つかった場合は、当施設の方向性について協議が必要です。</p>					

所管課	観光物産課
-----	-------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	太鼓格納庫	総延床面積 (㎡)	56.20
所在地	五所川原市字栄町 119 番地	代表建築年 (年)	1977
構成施設	格納庫		
施設の目的	あすなる大太鼓及び太鼓台車を保管		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
格納庫	4	8	8	4	2	26

(2) 供給面 (単位:)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
4	2	0	—

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	—

3. 基本的な方針

方向性	廃止	行動計画	除却	管理方法	—
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>あすなる大太鼓及び太鼓台車を保管しています。現時点では、今後あすなる大太鼓を運行する見込みはなく、2016年(平成28年)8月から電気の使用を止めたことから、現在、維持管理に係る経費は0円となっています。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>太鼓の処分方法及び建物の解体時期を今後検討していきます。</p>					

所管課	土木課
-----	-----

1. 施設の概要及び目的

施設名称	スノーステーション	総延床面積 (㎡)	1,267.57
所在地	五所川原市金山字竹崎 211 番地 1	代表建築年 (年)	2006
構成施設	スノーステーション		
施設の目的	除雪業務の管理及び除雪機械の格納		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
スノーステーション	20	32	8	8	2	70

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 年間			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 年間			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
3,953	2,062	2,257	2,482

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 年間			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の状況及び課題】</p> <p>現状、大規模な改修等の必要性は認められず、施設使用に問題は見受けられないものの、一部設備等に損傷等が見られます。今後は、経年劣化による建物等への損傷等も懸念されるため、施設及び設備の機能維持のための小規模な修繕を実施していく必要があります。</p>					
<p>【基本的な方針の考え方】</p> <p>直営による除排雪業務の活動拠点として活用する施設であることから、必要最低限小規模な修繕等実施しながら、施設及び機能の維持管理に努めていきます。</p>					

所管課	土木課
-----	-----

1. 施設の概要及び目的

施設名称	道路河川管理ステーション	総延床面積 (㎡)	877.42
所在地	五所川原市中央4丁目130	代表建築年 (年)	2016
構成施設	庁舎棟、車庫A棟、車庫B棟		
施設の目的	排雪業務の管理及び排雪機械の格納		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は100点満点 (表1参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
庁舎棟	20	40	6	20	2	88
車庫A棟	20	40	8	20	2	90
車庫B棟	20	40	8	20	2	90

(2) 供給面 (単位:)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
—	—	941	1,035

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去3か年			将来推計
2015年度	2016年度	2017年度	2029年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
【施設の状況及び課題】 2016年度 (平成28年度) に建築した施設で、現状、問題はありません。					
【基本的な方針の考え方】 直営による除排雪業務の活動拠点として活用する施設であることから、施設及び機能の維持管理に努めていきます。ただし、今後、除排雪体制の抜本的な見直しにより、施設の目的を果たす必要がなくなった場合には、施設の目的変更を検討していきます。					

所管課	金木総合支所
-----	--------

1. 施設の概要及び目的

施設名称	金木町除雪センター等	総延床面積 (㎡)	583.00
所在地	五所川原市金木町芦野 200 番地 108	代表建築年 (年)	1989
構成施設	除雪センター、重機置場、塵芥収集車庫		
施設の目的	事務所、福祉バス及び除排雪重機格納庫		

2. 施設の現況

(1) 品質面 (建物性能) ※品質面の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
除雪センター	20	8	6	4	2	40
重機置場	20	8	6	4	2	40
塵芥収集車庫	20	8	6	4	2	40

(2) 供給面 (単位:)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
—	—	—	—

(3) 財政面 (支出: 施設に係る維持管理コスト) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
476	640	675	640

(4) 財政面 (収入: 利用料等収入) (単位: 千円)

過去 3 か年			将来推計
2015 年度	2016 年度	2017 年度	2029 年度
0	0	0	0

3. 基本的な方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
【施設の状況及び課題】 施設は年々老朽化が進むと思われませんが、修繕して継続していきます。					
【基本的な方針の考え方】 事務所、福祉バス及び除排雪重機格納庫として継続して使用します。					

【表1】建物性能

評価基準に重みを掛けたものを建物性能とする。

評価基準		重み
①耐震性能	5点：新耐震基準（建築年が1981年（昭和56年）以降） 4点：旧耐震基準であるが耐震性有（Is値0.72以上） 3点：旧耐震基準であるが耐震性有（Is値0.6以上） 2点：旧耐震基準であるが今後耐震改修の計画有り 1点：旧耐震基準（建築年が昭和56年前）	×4
②老朽化状況	法定耐用年数に対する建築経過年数の割合を以下の区分で評価。 5点：0～25%未満 4点：25～50%未満 3点：50～75%未満 2点：75～100%未満 1点：100%以上	×8
③主体構造	5点：主体構造が鉄骨鉄筋コンクリート、鉄筋コンクリート、プレキャストコンクリート等 4点：主体構造が鉄骨造、軽量鉄骨造など 3点：主体構造が木造、コンクリートブロックなど	×2
④大規模改修状況	5点：建築後10年以内の建物（大規模改修が不要） 4点：建物本体の改修を実施 3点：設備の改修を実施 2点：未実施だが、改修計画有り 1点：未実施	×4
⑤福祉性能	エレベーター、多目的トイレ、車いす用スロープ、自動ドア、手すり、点字ブロックの6項目のうち、対応している項目数に応じて評価。 5点：4項目以上対応済 4点：3項目対応済 3点：2項目対応済 2点：1項目対応済 1点：未対応	×2